

## 住民や職員を被ばくから守れない全く実効性なき訓練



グリーン・アクション アイリーン・美緒子・スミス

8月31日、高浜原発事故を想定した福井県の原子力防災総合訓練が行われました。原子力発電に反対する福井県民会議や関西の人々と一緒に、小浜市立松永小学校と若狭町上中庁舎での訓練を監視しました。訓練は、小浜市松永地区の一部の住民が松永小学校にてヨウ素剤（と書いた紙）を受け取り、6km弱離れた上中庁舎に移動し、スクリーニングを受けるという流れでした。

### ◆とても簡易なゲート型モニターを別の場所から業者が運んできた

朝5時45分、ゲート型モニターの設置を監視するため、上中庁舎に到着。6時前に1つ目のモニターの業者2名が自家用ワゴン車で到着。ゲート型モニターを取り出し、10分間で設置。モニターはとても軽くて簡単なものでびっくりしました。内臓バッテリーで最高40時間使えるとのこと。2つ目のモニターも業者数名が10分ほどで設置。雨に弱そうで、業者は設置後ビニールを上からかぶせました。また、両方とも地震で倒れやすそうでした。

実際の事故時に別の場所から運搬してくれば渋滞に巻き込まれるでしょう。業者に頼っていましたが、事故時に業者が来るのでしょうか？機器は各スクリーニング場所の倉庫に置いておき、定期点検し、倉庫の鍵の所在、モニターの設置の仕方、使い方の分かる複数の人が近くに常に待機している必要があります。大雨の時の対応、夜間の照明なども問題になります。

### ◆若い女性がほとんどの配布チームが長時間屋外に待機し、「ヨウ素剤」を配る

7時30分に、高浜町のみに通達が出されました。通達は全ての自治体に出されるべきなのに、小浜市、若狭町等には出されませんでした。8時33分に、松永小学校から少し南側の地点で「これは訓練、30km圏内の屋内退避開始、外出を控えて下さい」と指示する放送が流れました。放送は集落から離れていても聞こえましたが、畑で作業をしている人など全てに行きわたるのでしょうか？8時36分には私の携帯電話に訓練・屋内退避を指示する情報が入りました。

9時30分には、保護者に「避難です。学校まで迎えに来て下さい」と指示するメールが配信されました（県民会議が聞き取り）。学校における「原子力災害時避難計画」（2014年6月）に基づいた指示です。10時15分頃、「モニタリングポストが基準値を上回る数値を観測したので避難を開始する」との放送。

松永小学校にいた子ども達を迎えに来た保護者は、体育館にいる子ども達と合流。保護者と子ども達はマスク（コンビニで買えるようなもの）を着用し、体育館から広い校庭を徒歩で横断し、駐車していた計15台の車に乗り込みました。車は、裏門前で屋外待機していたヨウ素剤配布チーム（医師・薬剤師を除き全員若い女性。全員綿の帽子とコンビニで買えるようなマスクを着用）のいる所へ行き、配布チームが「ヨウ素剤のアレルギーはありますか」と質問。回答は自己申告で、保護者が車の中から、ヨウ素剤の飲み方を書いた用紙と「ヨウ素剤」を受け取り、車は出発。



一方、正門前で屋外待機していたヨウ素剤配布チーム（こちらにも医師・薬剤師を除き全員若い女性）は、小学校に集まってきてバスに乗り込んだ周辺住民に対し、裏門での配布と同じ説明・方法で、バスの中で「ヨウ素剤」を配りました。放送が遅れた為、22名の住民はバラバラと到着し、引き渡しをする職員等他31名と共に、計53名がバスに乗り込みました。バスの中に入る時は、誰もオーバーシューズを履いていませんでした。バス内の除染はどうするのでしょうか？

薬剤師を含めヨウ素剤を配布する人員は、事故に備え付近に常にいるのでしょうか？福井市や敦賀市から来るのでは待てません。実際の事故では避難する住民・車の数は、今回よりはるかに上回ります。渋滞を考慮した上で、住民の避難を誘導する県職員等が学校に到着するまでの時間を把握しているのでしょうか？学校の出入口は狭く、どう交通整理するのでしょうか？

ヨウ素剤配布チームは、防護服もなく、帽子と簡単なマスクだけで、まともな被ばく対策はなされていませんでした。さらに、ほとんどが若い女性で、そもそも若い女性が原発事故の際、屋外に長時間いること自体が大問題です。チームの女性達は「これって防護服いりますよね」と話していました。また、「要援護者を誰が避難させるかを設定しないとイケない」と言っていました。

#### ◆スクリーニング場所—ガスマスクの自衛隊員とほとんど無防備の住民が一緒にいる異様さ

スクリーニングにかかる時間は平均3分1秒でした。住民は汚染されていることを前提にスクリーニングされました。スクリーニングの担当者は、おおい町から避難してきた住民に「農作業などしていると、それぞれ異なる被ばくになります」と説明していました。汚染されていたら服を脱ぐとの説明がありましたが、訓練では行われていませんでした。シャワーは展示されていましたが、使用されませんでした。どのように脱衣場等に汚染が広がらないようにするか、シャワーの前後で違う場所で着替えるのか不明です。今回はバスが誤って、除染で出た汚染水を閉じ込める柵に当たったとのことでした。

核戦争のシーンを思い起こすガスマスクを装着している自衛隊員とほとんど無防備の住民が同じ駐車場にいることが異様でした。自衛隊員の近くにいた県職員などの中には、コンビニで買えるようなマスクすらしていなかった人達がありました。



#### ◆実践的な訓練とはほど遠い

今回の訓練は、そもそも設定されたシナリオに沿った訓練なので、実践的な訓練とはほど遠いものでした。想定外の状況をどう乗り越えるかということが一切ありませんでした。

今回、2ヶ所を見ただけでも、原発防災には、多くの県・自治体職員の訓練、人員投入が必要なのがよく分かりました。しかし、職員は、自宅も被災している時に家族をおいてでも職務に就くのでしょうか？また、実際の事故の際の、避難する車、置き捨てられる車、バス等の台数や置き場所を全く考えていないようでした。ガソリン供給やバス運転手の被ばくも問題となります。

松永小正門前の「ヨウ素剤」配布関係者の方は「反省会を行い、どのような修正が必要か話し合います。今日の訓練の前に既に、ヨウ素剤については通常健康診断時に確認しておけば、住民は事前にアレルギーがあるか否か分かる、という意見が出ていました」と話してくれました。しかし、事前に問診するという話はあったが、「今回は間に合わなかった」とのことでした。

訓練後に出されるさまざまな反省点がどのくらいリストアップされ、実行されるのか、今後監視していく必要があります。また、市民からの指摘も反省点に含めるよう要請していきましょう。